



秋田駅中央改札口前

地方中核駅における産官学連携 まちづくりの推進(ノーザンステーションゲート秋田)

～地域の皆さまの利便性を高め、すべての人が心豊かに生活できるサービスを提供する～

JR東日本グループでは、「地方を豊かに」という考えのもと、すべての人が心豊かに生活できるサービスの提供をめざしています。2015年9月、秋田県・秋田市とともに「地方創生に向けたコンパクトなまちづくりに関する連携協定」を締結し、中心市街地の賑わい創出、観光流動の創造につながる取組みを進めています。

ノーザンステーションゲート秋田

「ノーザンステーションゲート秋田」は、人口減少・少子高齢化が全国の中でも特に進行している秋田において、秋田駅を中心に地元の行政・大学・企業と連携して推進する地方創生・コンパクトシティの取組みです。

2017年4月には、秋田新幹線こまち開業20周年に合わせ、秋田駅及び西口立体駐車場を開業しました。また、秋田駅東口では、健康・スポーツをテーマに2018年5月スポーツクリニックが開業し、今後も



城東スポーツ整形クリニック

2019年度冬にバスケットボールに特化したアリーナ・子育て支援施設、2020年春には学生マンション・合宿所が開業予定です。今後も次の20年の秋田の活性化に向けて取り組んでいきます。



産官学によるまちづくり

秋田県の玄関口である秋田駅の活性化に向けて、秋田県、秋田市と連携し、まちづくりを進めています。秋田駅では、秋田公立美術大学にデザイン監修していただき、意匠に優れた空間を実現しました。



産官学が一体となり推進



秋田杉の外壁と家具で居心地の良さを創出(写真:SATOSHI ASAKAWA)

地域産業との連携

秋田県の玄関口として観光流動を創造するため、待合ラウンジの内装に秋田杉を採用するとともに、地元家具製作所が県産材を活用して製作した家具を配置し、居心地の良ささと秋田らしさを実現しました。



秋田杉の活用が、多様な人とのつながりを生みだす



秋田を五感で体感できる待合ラウンジ(写真:SATOSHI ASAKAWA)

健康・スポーツまちづくり

秋田駅東口は、健康・スポーツを通じ、3世代が元気に暮らせるプラチナタウンの検討を進めています。アリーナ・子育て支援施設やクリニック、学生マンション・合宿所等を整備し、周辺の公園やスポーツジムとも連携しながら活性化を図ります。



アリーナは、外部から見える環境とし、地域に開かれた場を創出



学生マンション・合宿所により、若年世代が駅前で活躍できる場へ

受賞
歴等

木材利用による二酸化炭素固定認証
認定建物【JR秋田支社ビル、秋田駅】
(秋田県産材を一定量使用した建物等
の木材の二酸化炭素固定量を評価する
制度)



ウッドデザイン賞2017
最優秀賞(農林水産大臣賞)受賞
【秋田駅及び秋田西口駐車場ビル】
(木の良さや価値を再発見させる製品
や取組みについて評価する制度)

VOICE



秋田公立美術大学
景観デザイン専攻教授
小杉 栄次郎 様

今回の産官学プロジェクトでは、「ユーザー視点での空間の在り方」について立場を越えて議論し、そこから「アクティビング」というコンセプトが生まれました。このコンセプトを関係者全員で共有して事業を進めることにより、駅利用者はもちろん、多くの一般市民が居心地よく過ごせる空間・場所のデザインが実現できました。こうしたまちづくりの動きが、秋田駅を中心にさらに拡がることを願っています。



秋田支社
総務部企画室
地域活性化推進室長
田口 義則

県・市との連携協定を機に行政や民間事業者、団体と一緒に駅周辺の活性化に取り組む土台ができてきました。「駅」は公共交通機関の拠点、県内観光の玄関口、あるいは、市民が日常的に集う場として象徴的な役割があり、年代や目的、交通手段を問わず、多様な人が集う場になって欲しいと考えています。そのためにもソフト・ハード両面にわたりさまざまな仕掛けを考え、秋田の活性化を推進していきます。

関連記事についてはP64をご参照ください